

第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

2017年5月13日（土）～14日（日）

@サンポートホール高松、高松シンボルタワー、JR ホテルクレメント高松

ワークショップ 4	
企画名	産後ケアの充実化：産後メンタルヘルスを中心に
日時	2017年5月13日（土） 8:45～10:15
会場	第6会場（サンポートホール高松 ホール棟 7F 第3リハーサル室）
企画責任者	鳴本 敬一郎（浜松医科大学産婦人科家庭医療学講座／静岡家庭医養成プログラム）
定員	54名
開催の目的・概要	
<p>【開催の目的】 より良い産後ケアに向けて（特に産後メンタルヘルスを中心に）提唱されている事業の中で、総合診療医の役割について再認識すると同時に、現在の診療へ産後ケアの視点を導入できるようになる</p> <p>【概要】 産後は、身体の変化、育児、家族ライフサイクル、仕事など様々な変化が凝縮している時期であり、それに伴うメンタルヘルス支援を必要とする例が増加している。厚生労働省による「妊娠・出産包括支援モデル事業」や日本産婦人科医会による「妊娠等について悩まれている方のための相談援助事業連携マニュアル」を通して、心理社会的背景にハイリスクがみられる場合、産前から産後まで、医師（産婦人科、小児科、精神科）、助産師、保健師、臨床心理士、ソーシャルワーカーなどの他職種が地域で連携を強化するシステムが構築されてきている。しかし、ACCCAの視点を備える総合診療医の役割について記載はない。当セッションでは、(1)産後の様々な変化を捉えた総合診療医の産後ケア、(2)産後メンタルヘルスへの早期対応、(3)産後メンタルヘルスケア体制における総合診療医の役割、について事例を踏まえながら議論を深める。</p>	